

# 令和 7 年度

## 難聴児の早期支援及び 関係機関連携強化協議会

- ▶ 日 時：令和 8 年 3 月 26 日(木曜日)18 時 30 分から 20 時 30 分まで
- ▶ 実施方法：都庁第一本庁舎 4 2 階北側 特別会議室 C (オンライン会議併用方式)

# 会議の進行

## I 開会

## II 議事

- (1) 東京都難聴児相談支援センターの相談実績について
- (2) 東京都難聴児相談支援センターの講習会等開催実績について
- (3) 今後の課題について

## III 閉会

# 1 東京都難聴児相談支援センターの相談実績について

---

# 1-1 相談状況概要（令和7年1～12月）

## （1）相談実人数

難聴児・者(A)		69人
内訳	19歳以上	6
	16～18歳	3
	13～15歳	0
	7～12歳	11
	0～6歳	48
	不明	1
関係機関(B)		25機関
内訳	区市町村	13
	療育教育機関	8
	医療機関	0
	その他	5
合計(A)+(B)		94

## （2）相談方法

難聴児・者69人の今年度初回相談方法を集計

相談方法	人数
電話	42
来所	10
フォームメール	14
メール	2
オンライン	1
合計	69

※昨年度から継続の方については、今年1回目の相談方法

※令和6年3月～12月実績

難聴児者 83人(A)（うち0～6歳 60人）

関係機関 18機関(B)

合計(A)+(B) 101

# 1-1 相談状況概要（令和7年1～12月）

## （3）区市町村別人数

難聴児・者 69人のうち東京都内在住者の居住地を集計

人数	市 区 町 村				
6	板橋区	練馬区			
4	江東区				
3	文京区	世田谷区	荒川区		
2	港区	新宿区	品川区	墨田区	大田区
	足立区	江戸川区			
1	千代田区	台東区	渋谷区	中野区	杉並区
	豊島区	葛飾区	八王子市	立川市	武蔵野市
	昭島市	調布市	町田市	小金井市	清瀬市
	東久留米市				

※他県(他県から東京都内に転居する前に相談) 8人

居住地不明 6人

# 1-1 相談状況概要（令和7年1～12月）

## （4）相談時期

6歳以下の難聴（疑い）児48人について、相談に来た時点の**年齢とステージ（検査の段階）**ごとに集計

単位：人

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	合計
新スク後～精密検査前	11	1	1	1	0	0	1	15
精密検査後～療育開始前	9	4	2	0	2	1	0	18
療育開始後	0	2	1	1	5	4	1	14
不明	0	0	1	0	0	0	0	1
<b>合計</b>	<b>20</b>	<b>7</b>	<b>5</b>	<b>2</b>	<b>7</b>	<b>5</b>	<b>2</b>	<b>48</b>

※新スク＝新生児聴覚スクリーニング検査

0歳（新スク後～精密検査前）

0歳（精密検査後～療育開始前）

1～6歳（療育開始前）

0～6歳（療育開始後）

状況別に相談と対応を集計

## 1-2 相談内容別の相談件数（令和7年1～12月）

難聴（疑い）児48人の初回相談時の主な相談内容を集計

相談内容の分類	件数
療育教育に関する問題	20
発達・言語コミュニケーション	12
子育て	11
補聴	10
医療に関する問題	10
難聴・診断	9
今後の見通し・進路	6
家族・経済	3
発達支援	2
社会資源・制度	2
その他	3
<b>合計</b>	<b>89</b>

※1人の相談者が、複数の内容について相談しているケースがあります。

# 1-3 状況別相談内容（令和7年1～12月）

## （1）0歳（新スク後～精密検査前）

0歳の難聴（疑い）児のうち、**新生児聴覚検査後から精密検査受検前まで**の期間に相談にきた11人の相談対応を集計

### ●主な相談内容とその対応

分類	相談内容	対応内容
難聴・診断	新スク2回ともリファーだった場合、難聴である割合はどのくらいか知りたい	・リファーが出ても <b>必ずしも難聴というわけではなく</b> 、実際は難聴でない場合が2割、難聴の場合が8割と説明。
補聴	補聴器について知りたい	・ <b>補聴器と人工内耳</b> について、適応などを説明。 ・言語の発達と補聴の関係、 <b>補聴の必要性</b> を説明。
子育て	今の段階でできることを知りたい	・ <b>子育てで必要な声掛けや接し方</b> について伝える ・きこえに合わせた <b>おもちゃ</b> を紹介
医療に関する問題	精密検査を早く受けられる医療機関を知りたい	<b>精密聴力検査医療機関</b> を紹介 →（保護者の同意があれば）紹介先病院に <b>情報共有</b> →（必要に応じ） <b>病院の選び方</b> について助言

### ●難聴疑い段階の相談の傾向

- 難聴の確定診断前であるが、**補聴器、人工内耳**等についての相談、難聴児の**子育て**についての相談が寄せられている。
- 新生児聴覚検査リファーの結果を受け、**検査結果**についての相談や、**早めの行動をとりたい保護者の相談先として、難聴児センターが活用されている。**

# 1-3 状況別相談内容（令和7年1～12月）

## （2）0歳（精密検査後～療育開始前）

0歳の難聴児のうち、**確定診断後から療育開始前まで**の期間に相談にきた9人の相談対応を集計

### ●主な相談内容とその対応

分類	相談内容	対応内容
補聴	人工内耳の選択について知りたい	・人工内耳の説明をし、手術時期などについては、かかりつけ耳鼻科と相談するように助言。
	補聴器導入について知りたい	・補聴器について種類や購入場所の説明 ・中等度難聴児発達支援事業(区市町村)について説明
子育て	これからどう育てればよいかを知りたい	・傾聴し、一側性、軽度、重複障害も含め、 <b>難聴の状態に応じた</b> 子育てについて助言 ・母の精神面も大切にするように伝える
発達・言語コミュニケーション	今後のコミュニケーション方法を知りたい	・手話と音声言語について説明。 ・難聴児者とのコミュニケーションで気をつけることの基本事項を説明。 ・保育園への <b>難聴理解啓発の仕方</b> を説明。
療育教育に関する問題	療育機関の選び方を教えて欲しい	・ニーズに合ったろう学校の乳幼児教育相談や療育機関を紹介 ・候補にあがった療育機関についてそれぞれ説明し、見学に行くことを勧める。
医療に関する問題	病院を紹介して欲しい	・ニーズに合った医療機関の紹介(人工内耳の手術を行っている病院、小児難聴に詳しい病院、帰国後の病院)

### ●確定診断後の相談の傾向

- 難聴乳児への**かかわり方**や、**療育先の選び方**、**補聴**についての相談が多い。
- 難聴と診断された**際に、具体的な対応について相談する場として**難聴児センター**が活用されている。

# 1-3 状況別相談内容（令和7年1～12月）

## （3）1～6歳（療育開始前）

1～6歳の難聴児のうち、**療育開始前**に相談にきた9人の相談対応を集計

### ●主な相談内容とその対応

分類	相談内容	対応内容
療育教育に関する問題	今後の療育をどうすればいいのか知りたい	<ul style="list-style-type: none"><li>・療育施設の紹介</li><li>・ろう学校と療育施設の併用について問題ないことを説明</li><li>・身体障害者手帳、補聴器の申請。受給者証の申請の仕方について説明</li></ul>
補聴	補聴器がつけられないどうすれば良いか知りたい	<ul style="list-style-type: none"><li>・補聴器の必要性を説明</li><li>・本人、周囲に補聴器の理解を得るための方法を助言</li></ul>
発達・言語コミュニケーション	今後の発達についてどうすればよいのか知りたい	<ul style="list-style-type: none"><li>・手話や文字等をしっかり習得することは、成人期に向けて必学と思われることを説明</li></ul>
	聞こえにくさを伝える方法を知りたい	<ul style="list-style-type: none"><li>・必要な配慮を伝え、聞こえの様子や変化について気をつけてみてもらうように伝える</li></ul>

### ●1～6歳で療育を開始していない難聴児の相談の傾向

- 今後の発達や療育についての相談が中心。
- 子どもの補聴器への抵抗感など**ケース**の相談が増加し、**より踏み込んだ支援**が必要となる。
- 精密検査の**再検査までの不安を相談する場**としても難聴児センターが活用されている

# 1-3 状況別相談内容（令和7年1～12月）

## （4）0～6歳（療育開始後）

0～6歳の難聴児のうち、**療育開始後**に相談にきた14人の相談対応を集計

### ●主な相談内容とその対応

分類	相談内容	対応内容
家族・経済	母親の精神面について相談したい	・母親のレスパイトも考慮しながら療育先を選択することをすすめる。 ・まず家族が難聴について理解を深めるようアドバイス
今後の見通し・進路	通常学級への入学について相談したい	・就学指導委員会で聞こえや発達について配慮してほしいことについて伝えるよう助言。 ・ろう学校について説明
療育教育に関する問題	施設を平行利用したいので紹介してほしい	・療育機関の紹介。事前の見学の必要性を説明。
	転居先での療育機関が知りたい	
	担任の指導、言動について相談したい	・傾聴し、わかってくれそうな先生に相談することをすすめる。

### ●療育開始後の相談の傾向

- 母親の育児に対するストレスや障害受容についての相談が増加。
- 子供の成長とともに関わり方がわからない旨の相談は減少、小学校の入学に関する相談が増加。
- 家庭の事情や、療育への細やかな要望が提示されることが増える。
- すでに子供の間人間関係が広がっているため、療育先や学校での、担任との問題についての相談が増加。

# 1-4 相談の契機と相談回数（令和7年1～12月）

## （1）相談の契機

相談のなかで判明した相談の契機を集計

相談の契機	人数
難聴児支援ポータルサイト	9
難聴児センター職員(元ろう学校教員)の紹介	3
保健所からの紹介	2
耳鼻咽喉科からの案内	1
療育機関からの紹介	1
都立ろう学校(乳幼児相談)からの紹介	1
東京都盲ろう者支援センターからの紹介	1
他県の難聴児センターからの紹介	1
医療機関にあった難聴児センターチラシ	1
友人の紹介	1
<b>合計</b>	<b>22</b>

## （2）相談回数

難聴児・者69人の相談回数を集計（中央値2回）

回数	人数
1	32
2	15
3	11
4	3
5	5
6	2
7	1
<b>合計</b>	<b>69</b>

⇒延べ相談件数  
151回

## 1-5 センターからの紹介した関係機関（令和7年1～12月）

### （1）医療機関・保健所等

紹介先	件数
精密聴力検査医療機関	17
二次検査実施医療機関	2
<b>合計</b>	<b>19</b>

### （2）療育・教育機関等

最終紹介先	件数
都立聴覚障害特別支援学校	14
国立聴覚障害特別支援学校	3
聴覚障害私立学校児発	1
児発センター、児発・放デイ	15
きこえとことばの民間教育施設	1
当事者団体	2
<b>合計</b>	<b>36</b>

※1人の相談者へ複数の医療機関や療育・教育機関等を紹介しているケースがあります。

# 1-6 関係機関相談状況（令和7年1～12月）

関係機関25か所の相談内容を集計

関係機関	相談	件数	件数合計
区市町村	個別事例に関すること	5	13
	精密検査ができる医療機関を紹介してほしい	1	
	療育施設を紹介してほしい	2	
	難聴児の育児について	1	
	難聴者の母親の健聴児の子育てについて	1	
	手話通訳などの支援について	1	
	講演依頼について	1	
	難聴児センターの見学及び情報交換	1	
療育・教育機関	個別事例に関すること	1	8
	難聴児の対応について	1	
	難聴児センターの見学及び情報交換	6	
その他	難聴児の対応について	1	6
	講演依頼について	1	
	難聴児センターの相談状況について	2	
	難聴児センターの見学及び情報交換	2	

## 2 東京都難聴児相談支援センターの 講習会等開催実績について

---

## 2-1 令和7年度講習会等の開催状況

開催日	対象者	形式	参加実績
第1回 7月22日 (火曜日) 第2回 7月28日 (月曜日)	区市町村 (保健師)	オンライン研修 (希望者は難聴児センター で受講)	第1回 オンライン申込： <b>31名</b> 現地参加： <b>11名</b> 第2回 オンライン申込： <b>36名</b> 現地参加： <b>14名</b>
11月30日 (日曜日)	難聴児の保護者 難聴児の療育に 携わる職員	難聴児センターでの講演会 (手話通訳あり)	申込： <b>20名</b>
1月初旬から 年度末まで	障害児通所施設 保育所等	YouTube 動画の限定配信	<b>1,084回</b> 再生 (R8.3.10時点)
1月29日 (木曜日)	医師 言語聴覚士 助産師等	オンライン研修	参加者： <b>143名</b>
3月1日 (日曜日)	難聴児と その保護者	難聴児センターでの交流会	申込： <b>7家族</b>

## 2-2 区市町村（保健師）対象講習会

### 概要

【開催日】令和6年7月22日、28日

【目的】

乳幼児に身近な母子保健を担う保健師の聴覚障害に関する理解を深め、難聴(疑い)児への対応力強化を図る。

【対象】区市町村の**母子保健担当の保健師等**

【講師】講 義：難聴児センター相談員  
(元聴覚障害特別支援学校教員)  
検査デモ：難聴児センター相談員  
(言語聴覚士)

【申込者】オンライン67名、現地25名

### 今日お話をさせていただく内容

- 難聴の種類ときこえについて
- 新生児聴覚検査（新生児聴覚スクリーニング検査）を受けた事例
- 早期発見ができなかった事例
- 難聴児相談支援センターで対応した事例
- 保護者交流会の紹介
- 難聴児の就学前の教育、療育機関と就学後の進路先の紹介

### 講習会后アンケートより

Q リファアとなった乳児の保護者へ対応で困ったことはありますか？

- ・みんな再検査でパスとなっており不安が表面的でなかったため、どう寄り添えばいいのかわからなかった。通常通りに話を聞いていたが、それであっていたのか今も疑問がある。
- ・病院（耳鼻科・他疾患で小児科）には継続受診しているが、補聴器と手帳のために受診しているのみで、保護者の支援の必要性の理解が得られなかった。病院との連携も取りづらく対応に苦慮した。
- ・自分自身が難聴に関する知識が不十分のため、自信をもって対応できない。
- ・「不安になりすぎないよう次の検査結果が出るまで待ちたい」「情報は知りたい」という保護者の方の揺れる思いに寄り添いつつ情報提供することの難しさを感じました。

## 2-3 手話に関する講演会

### 概要

【開催日】令和7年11月30日

【目的】

手話を母語とする聴覚障がい者家庭の子育てを知ることを通して、手話の理解を深める。

【対象】**難聴児を育てる保護者、**

**難聴乳幼児の療育を担当する職員**

【講師】講演：手話で難聴児を育てた難聴者  
(葛飾区聴力障害者協会会長、葛飾区身体障害者相談員、  
手話講習会手話講師)

【申込者】20名

### お話ししたいこと

- 01 手話ってなーに？
- 02 「差」ではなく「違い」を知る
- 03 手話で育てる
- 04 「目で見る日本語」の工夫
- 05 絵本読み聞かせの工夫

### 講習会后アンケートより

Q講演内容に対する意見を教えてください

- ・手話を使って子育てをすることの大切さを、改めて考えることができよかったです。
- ・子育てで手話を使う大切さ、ろう者と聴者の違いが分かりとても勉強になりました。子育てを楽しんでいきたいと思います。
- ・ろうの母とはいえ子育ては初めてなので、少し悩みが解消される日になりました。
- ・聴者の文化との違い、子どもとのコミュニケーション方法の違いを例示してくださったことで、自分の中に具体的なイメージができました。

## 2 - 4 YouTubeによる講習動画の配信

### 概要

#### 【目的】

難聴（疑い）児支援に携わる児童発達支援事業所、認可保育所等職員の基礎的対応力強化を図る。

#### 【対象】

**障害児通所支援事業所、認可保育所、認定こども園、認証保育所、認可外保育施設等**

#### 【講師】

難聴児センター相談員（言語聴覚士）、難聴当事者とその家族（インタビュー）

#### 【配信方法】

施設サービス支援課児童福祉施設担当のYouTubeアカウントより限定公開

#### 【配信期間(予定)】

令和8年1月上旬から令和3月末まで

#### 【再生回数】

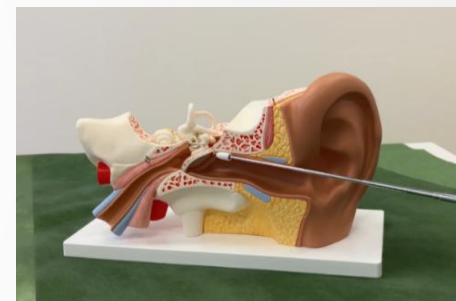
R7実績：1,090回（令和7年3月17日時点）

#### インタビューの内容

- 1 難聴の診断と両親の思い
- 2 幼児期の言語指導
- 3 学童期の取り組み
- 4 大学生、そして社会人として
- 5 家族の思い

#### 本日の講義内容

- \* 1 身の回りにある様々な音
- \* 2 聞こえの仕組み
- \* 3 難聴の原因と子どもの発達への影響
- \* 4 難聴の程度と聴力測定
- \* 5 早期からの聴覚活用：補聴器と人工内耳
- \* 6 難聴児の聞こえと私たちにできる配慮
- \* 7 子どもの難聴に気づくために



耳の構造の説明



補聴器の電池交換の説明

## 2-5 医師・言語聴覚士・助産師対象講習会について

### 概要

【開催日】 令和8年1月29日

【目的】

東京都難聴児相談支援センターと医師・言語聴覚士・助産師等の医療関係者が連携して難聴児への理解を深めることにより、難聴児の福祉の向上を図る。

【対象】 都内在住・在勤の**医師、言語聴覚士、助産師**等

【講師及び内容】

外部講師（耳鼻咽喉科医師）

「新生児聴覚スクリーニングの現状と課題—きこえの確認シークエンスの観点から—」

難聴児センター顧問（医学博士）

「難聴児/者の聴覚補償・情報保障の変遷—グラハム・ベルの電話発明から電話リレーサービスの出現まで—」

【参加者】 R7実績：オンライン143名

### R7講習会后アンケートより

●東京都難聴児相談支援センターに期待すること（複数回答）

※アンケート回答者24名

選択肢	回答数
保健・医療・福祉・教育の <b>連携促進</b>	12
保健・医療・福祉・教育の <b>情報集約及び発信</b>	13
<b>保護者支援の充実</b>	14
<b>講習会の充実</b>	15
普及啓発物・動画等の作成	7
その他	1
<b>合計</b>	<b>62</b>

（自由記述）  
都内の各医療・療育機関、聾学校、難聴学級などとの**連携**



## 2-6 難聴児の保護者交流会について

### 概要

【開催日】令和8年3月1日

【目的】

難聴児の家族のネットワーク作りを図り、  
交流による保護者の情報交換・情報収集を促進する。

【対象】

都内在住の**年少児から小学3年生までの難聴児とその保護者**

【内容】

保護者交流会：先輩保護者（相談員）を中心にグループトーク

子供お楽しみ会：フルーツバスケット等の室内遊び

【申込者】R7実績：7家族（保護者8名、子供7名）



←保護者交流会の様子



↑子どもお楽しみ会の様子

### R6交流会後アンケートより

- 東京都難聴児相談支援センターに力を入れて欲しいこと（複数回答） ※アンケート回答者7名

相談支援関係	回答数
継続相談	5
オンライン相談	0
巡回相談	2
<b>合計</b>	<b>7</b>

情報提供業務関係	回答数
療育・教育	6
福祉・行政制度	1
医療機関	3
補聴器等製品情報	2
<b>合計</b>	<b>12</b>

### 3 今後の課題について

---

### 3-1 令和6年度の課題（協議会における検討内容を含む）と対応実績

機能	課題(令和6年度)	対応(令和7年度)
相談支援	多摩地域在住者の支援強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>市町村の保健衛生主管課長会議に参加し、再度、難聴児センターを周知【東京都】</li> <li>多摩地域(東村山市)からの依頼により研修実施</li> <li>聴覚フェスティバル(西東京市)に参加し、難聴児センターを紹介</li> </ul>
	相談後のフォローアップ体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>難聴児センターを利用したことのある保護者が、保護者向けの講習会や交流会に参加した際に、現在の様子について声かけを実施</li> </ul>
情報提供	紹介元の機関へのフィードバックをする体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>難聴児センターから市区町村への相談記録連絡票の運用方法を確認</li> </ul>
	開業医への難聴児センター周知	<ul style="list-style-type: none"> <li>医師向け講習会を開業医にも案内し、案内メールに難聴児センターのチラシのPDFを添付し周知【東京都】</li> </ul>
	難聴児の保護者へのロールモデルの提示	<ul style="list-style-type: none"> <li>手話での子育て経験についての講演会を実施</li> <li>保護者交流会に難聴児の子育て経験者を招致</li> </ul>
	手話への理解を促進するための情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>手話での子育て経験についての講演会を実施</li> </ul>
人材育成	保健・医療・福祉・教育の専門分野に網羅的知識を有する人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>杉並区からの依頼で、多職種に向けて研修を実施。</li> </ul>
	ろう者への理解促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>療育機関向けの研修動画に、難聴者と両親へのインタビューを採用</li> </ul>

## 3-2 今後の課題と対応策（案）

機能	課題	対応
相談支援	多摩地域在住者の支援強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多摩地区中心に関連機関へ難聴児センターのチラシを送付し、再度難聴児センターを周知</li> <li>・多摩地域の関連機関と連携した方策の検討</li> <li>・多摩地域で講習会等(保護者、関連機関向け)の実施を検討</li> <li>・多摩地区での聴覚関連イベントへ参加し、センターを周知</li> </ul>
	相談後のフォローアップ体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォローアップ体制の構築について方策の検討</li> </ul>
情報提供	関係機関への支援強化 (フィードバック体制の構築を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区市町村以外へのフィードバック体制の方策の検討</li> <li>・研修内容の更なる充実</li> <li>・医療機関との情報交換会の開催</li> </ul>
	難聴児の保護者へのロールモデルの提示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や難聴児が、難聴者の成長過程における体験を聞ける講演会などを検討</li> </ul>
	手話への理解を促進するための情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手話に関する講習会等を継続して実施</li> </ul>
人材育成	保健・医療・福祉・教育の専門分野に網羅的知識を有する人材育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門分野を横断した人材育成の検討 (例：対面式での多職種対象の研修や事例検討会等の実施)</li> </ul>
	ろう者への理解促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・療育機関職員に向けて、研修内容の検討</li> </ul>

## 【参考資料 1】 これまでの協議会における検討内容

---

# 1-1 これまでの協議会における検討

## 協議会における委員の意見

### 第1回難聴児の早期支援及び関係機関連携強化協議会（R5.3.27）

#### ➤ 求められるセンターの機能を整理

- ・「耳鼻科医に人工内耳を無理に進められた」と保護者から相談を受けたことがある。出会う人によって、その後の方向性が決まってしまうのは課題だと思う。
- ・リファアになってから精密検査を受けるまで、大きな病院だと2カ月位かかる。その間の親御さんの不安に寄り添えるシステムが必要と感じる。
- ・手話にも口話にもメリットはある。様々な方法のなかで自分にあつたものを選ぶという環境をつくるのが大切。

### 令和5年度難聴児の早期支援及び関係機関連携強化協議会（R6.2.5）

#### ➤ センターの具体的運営内容を確認

- ・療育施設等については、相談員となる方々に一度見学に来ていただければ、より正確な情報を把握していただけるのではないかと思う。
- ・相談支援業務について、初等、中等、高等教育段階での多様な悩みについて相談を受けるとなると、相談員に相当の技量が求められることになると思うが、開設後すぐに対応できるのか。
- ・大塚にある1つのセンターだけで、多摩地域までカバーするのは難しいのではないか。
- ・相談者に医療機関や療育施設を紹介した後も長期的に支援していくセンターがよい。

## 【参考資料 2】 国事業について

---

# 参考資料 2 - 1 国事業について

▶令和6年度から**聴覚障害児支援中核機能強化事業**開始

## 聴覚障害児支援中核機能強化事業

支援局 障害児支援課

<児童虐待防止等対策総合支援事業費補助金>

令和6年度当初予算案 177億円の内数 (208億円の内数)

### 1 事業の目的

聴覚障害児の支援は乳児からの適切な支援が必要であり、また状態像が多様になっているため、早期からの切れ目のない支援と多様な状態像への支援が求められる。このため、福祉部局と教育部局の連携の下で、聴覚障害児支援の中核機能を整備し、聴覚障害児とその家族に対し適切な情報と支援を提供することを目的とする。

### 2 事業の概要・スキーム

聴覚障害児の地域の支援体制を整備・強化するため、体制づくりの中核となるコーディネーターを確保して1～5の事業を実施する。

#### 1. 聴覚障害児に対応する協議会の設置

医療・保健・福祉・教育の関係機関等から構成される協議の場を設置し地域の聴覚障害児の支援ニーズや支援機関・事業所等の現状把握、分析、関係機関の連絡調整等を通して地域の課題の整理及びその対応策・支援体制の充実の検討を行う。

#### 2. 聴覚障害児支援の関係機関の連携強化

医療・保健・福祉・教育等の関係機関・事業所等の役割の明確化や取組の情報共有、ネットワーク化等により、関係機関の連携による乳幼児期から成人までの切れ目のない支援体制の構築を進める。

#### 3. 家族支援の実施

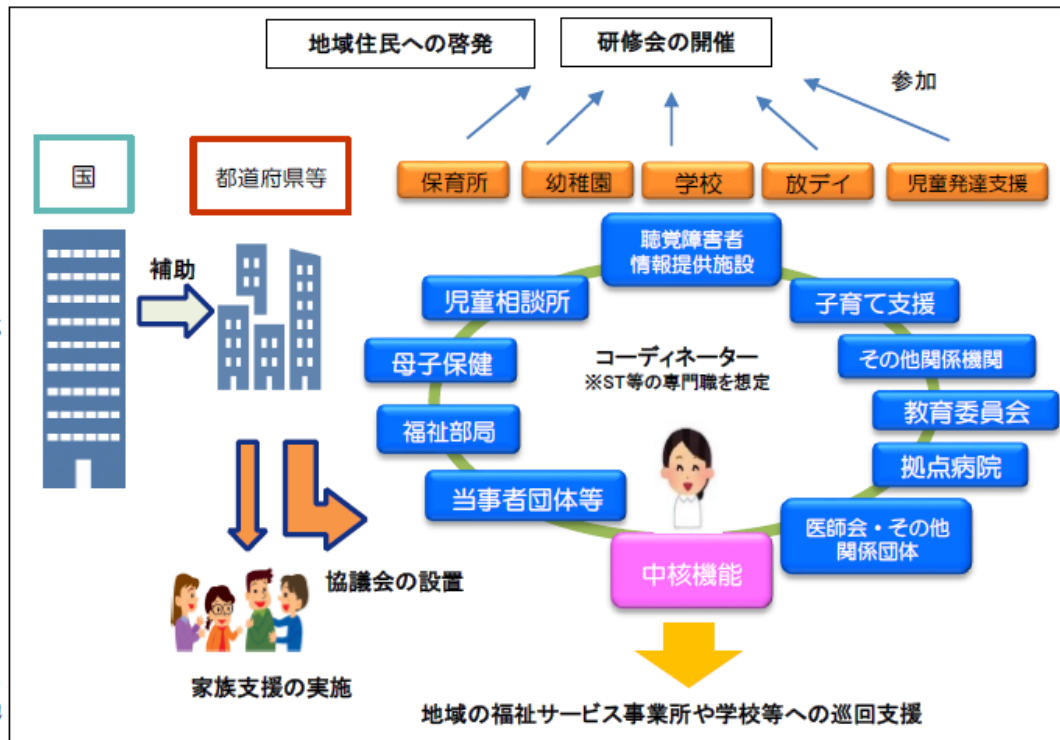
- ・家族等の精神面のサポートも含めた相談援助を行う。
- ・聴覚障害児や家族等の交流の機会を確保する。
- ・こどもとその家族が必要な情報を得るための環境を整備する。

#### 4. 巡回支援の実施

保育所、幼稚園等、障害児通所支援事業所、学校等を訪問する等して聴覚障害児への支援方法の伝達や専門機関の紹介等の助言・援助を行う。

#### 5. 聴覚障害児に関する研修・啓発

保育所、幼稚園、障害児通所支援事業所、学校等の職員に対する聴覚障害児の支援に関する研修会の開催や、市民講座の開催等により、人材育成と地域住民への啓発を進める。



## 【参考資料 3】 東京都難聴児相談支援センターについて

---

# 参考資料 3 - 1 東京都難聴児相談支援センターの開設

## 目的

センターは、難聴児及びその家族からの相談に応じ、助言や情報提供を行うとともに、講習会を実施するなど、関係機関と連携して総合的な支援体制を構築し、難聴児及びその家族の福祉の向上を図る。

## センターの事業実施内容

**開設日** 令和6年3月1日（金）開設

**実施主体** 東京都（委託事業）

**受託法人** 公益財団法人 聴覚障害者教育福祉協会

**運営日時** 相談受付時間：9：00～17：00  
運営日：週5日（日曜日開庁。水曜日・土曜日閉庁。）  
▶毎月の運営日は東京都難聴児支援ポータルサイトでも周知

**所在地** 東京都豊島区南大塚3-43-11 福祉財団ビル6階

**相談方法** 電話、メール、来所、オンライン（相談は無料）  
来所とオンラインは、電話またはポータルサイト経由で要予約

**対象者** 難聴児とその家族、関係機関（保健所、保育所等）の職員等

**相談支援**

- ・ 難聴児の家族等の**相談を受け**、手話等のコミュニケーション手段の助言や関係機関の紹介等を実施
- ・ 家族交流会の実施など、**家族同士のネットワーク**を構築

**情報提供**

- ・ **専用のポータルサイト**により、**聴覚に係る情報を一元的に提供**（手話・人工内耳、医療・療育機関の情報等）
- ・ 保健所、保育所など関係機関からの問合せにも対応

**人材育成**

- ・ 難聴児に関わる**人材（保健師等）の対応力強化**に向けた**講習会**の実施
- ・ **リーフレット・冊子、動画**等を活用し、基礎的な知識を都民に普及

# 参考資料 3 - 2 相談体制・相談室

## 1 相談体制について

センター長のほか、相談員 14 名がシフト制で勤務（相談員 2 名体制/日）

- ・ 元聴覚障害特別支援学校・小学校（難聴学級）教員
- ・ 言語聴覚士
- ・ 手話通訳士
- ・ 難聴児の子育て経験者

## 2 相談室



↑福祉財団ビル外観  
看板→



検査機器

- ・ COR
- ・ ピープショウ
- ・ プレイオーディオ

↑ 相談室 1・2 →

